


研究計画書

クロジは富士山北麓のどこで繁殖しているのか？

西 教生



繁殖期にクロジの生息が確認された環境

ある鳥類の繁殖分布や繁殖環境を明らかにすることは、その種の基礎的な生態を理解する上で極めて重要である。とりわけ、希少種や分布域の狭い種では、こうした記録の蓄積は保全をおこなうさいに貴重な情報を提供してくれる。

また、鳥類相や鳥類群集の構造、その地域差を考察するには、日本の繁殖鳥類がどこでどのぐらい繁殖しているのかという資料が必要になってくる。

クロジの繁殖地は極東に限られ、世界的な分布は非常に狭い。日本では本州中部以北の日本海側や北海道が繁殖地として知られているが、太平洋側や本州中部以南でも局地的に繁殖している。

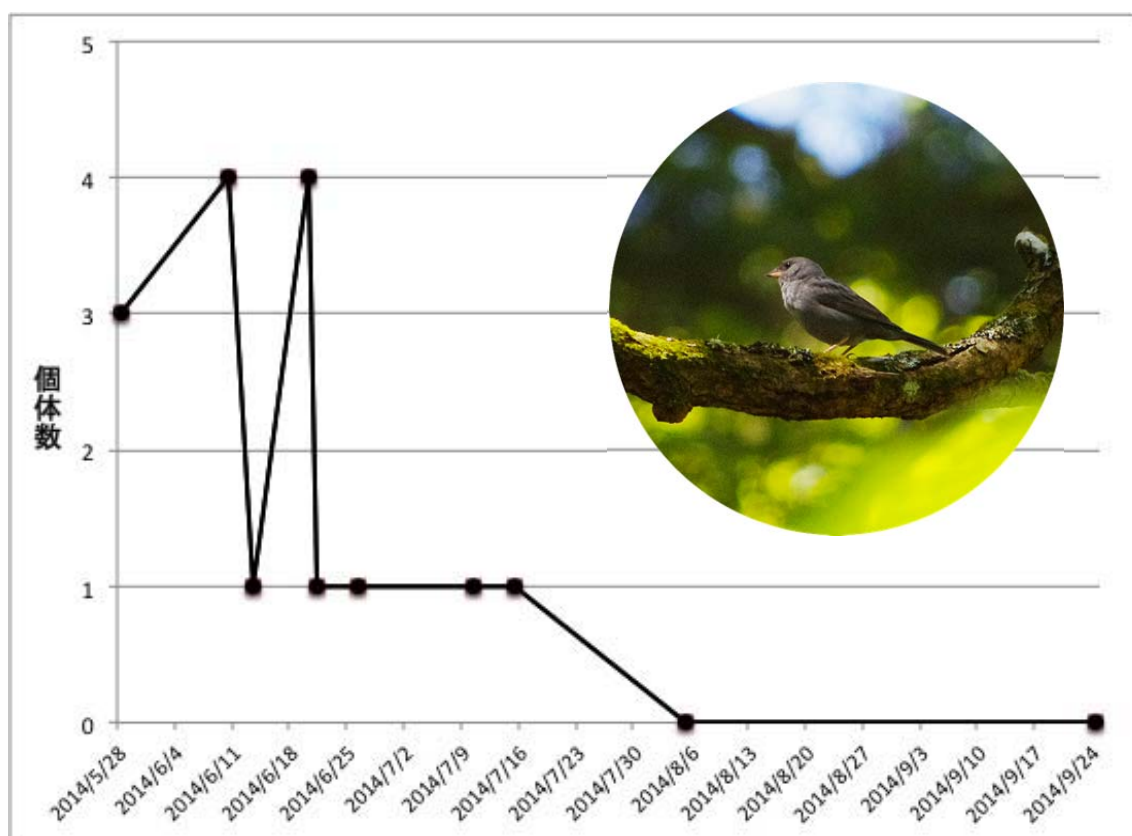
いまから約 40 年前に富士山北麓でおこなわれた鳥類の調査では、繁殖期にはクロジは確認されていない。しかし、申請者は 2009 年に富士山北麓の山地帯でクロジの巣立ちビナを観察した。その後も 2014 年までに同所では繁殖期に複数のクロジのさえずりが確認されている。

2014 年までの予備調査により、繁殖期にクロジが生息する場所はおおむねわかってきたが、その場所の植生についての詳細な調査はおこなわれていない。さらに、富士山北麓のどの範囲にクロジが分布しているのかも不明である。日本では少ない森林性のホオジロ類であるクロジは、どのような場所で繁殖しているのだろうか？

本研究は、繁殖期の富士山北麓のどこにどのぐらいのクロジが生息しているのかを明らかにしたい。

今回の研究が実施されると、富士山北麓におけるクロジの繁殖環境や分布状況が明らかになるであろう。長野県などではクロジの生態に関する記載があるため、当調査地の結果と比較することで、日本では少ない森林性のホオジロ類の生態がより理解できると考えられる。

これまでの断片的な調査から、富士山北麓のクロジは小さな繁殖個体群であることが予想される。富士山の近隣にはクロジの繁殖地はほとんどないと思われるため、いま、この調査をおこなうことには現代的な意義がある。



登山道沿いの 2014 年のクロジの個体数変化